



# J.LEAGUE SEASON REVIEW 2026 SPECIAL

J.LEAGUE SEASON REVIEW 2026 SPECIAL

## CONCEPT

Jリーグに関わるすべての方が参加し、理解し、  
共につくるリーグを目指しオープンかつフェアな  
情報開示を目的として発行しました。

Jリーグを通じて実現したいことを、  
自由に話し合うためにご活用いただければ幸いです。

理念である「日本サッカーの水準向上」、  
「豊かなスポーツ文化の振興」、  
「国際社会における交流や親善への貢献」に向けて、  
Jリーグはこれからもさまざまな取り組みを推進していきます。

### TOP INTERVIEW

## CHAIRMAN INTERVIEW

Jリーグチェアマン野々村 芳和が  
2026特別シーズン(百年構想リーグ)を語る

04

### 2026 Special J.LEAGUE

## 2026 Special Season Result

2026特別シーズン全大会の競技結果

10

### 2026 Special J.LEAGUE

## 2026 Special J.LEAGUE

2026特別シーズンを振り返る

18

### 2026 Special J.LEAGUE

## 2026特別シーズンに おけるフットボール

競技面から百年構想リーグを振り返る

22

### 2026 Special J.LEAGUE

## 2026特別シーズンに おけるマーケティング

事業面から百年構想リーグを振り返る

32

### 2026 Special J.LEAGUE

## 2026 特別シーズンの 他事業

パートナー事業と  
サステナビリティの  
取り組みを振り返る

36

### MANAGEMENT

## Jリーグの 財務報告

2026年特別シーズンの  
財務報告と  
2026/27収支予算

40

### MANAGEMENT

## クラブライセンス 判定とJクラブの 収支傾向

2026/27シーズンにおける  
クラブライセンス判定と  
Jクラブの収支傾向

44

# CHAIRMAN INTERVIEW

Jリーグチェアマン野々村 芳和が  
2026特別シーズン(百年構想リーグ)を語る

**Q. 明治安田Jリーグ百年構想リーグでは、90分以内で決着がつかない場合はPK戦が実施されました。その狙いと実際の成果について、聞かせてください。**

サッカー界のど真ん中にいる人からすると、違和感はあったのだろうかと想像します。でも、サッカーにちょっと興味があるとか、以前は興味があった、という人たちには刺激の一つになったのでは。中継や配信では、PK戦になると視聴数が伸びたと聞きました

**Q. 古くからのファン・サポーターからは「リーグ戦のPK戦は懐かしい」という声が聞かれました。野々村チェアマンも、現役選手だった当時にPK戦を経験していますね。**

僕自身も懐かしさはありませんし、もう一度見てみたい気持ちもありました。もちろんそれだけが理由ではなく、今年はFIFAワールドカップ2026™が開催され、SAMURAI BLUEは2010年大会、2022年大会ではPK戦で敗れている。それもあって、どこかのタイミングでPK戦を取り入れたというのは、かねてから考えていました

**Q. チーム関係者に聞くと、試合へ向けた準備ではセットプレーの練習に加えてPK戦も取り入れた、とのことでした。**

国内トップレベルのクラブがこれだけPKと向き合った機会は、初めてではないかと思うんです。普段のトレーニングに占める割合は、相手のスカウティングなども含めて圧倒的に増えたのだろうと。GKの存在感もクロ-



ズアップされました。そこは何らかの形で、プラスに作用していくと思います

**Q. AFCチャンピオンズリーグElite (ACL Elite) などのアジアの戦いへ出ていけば、ノックアウトステージではPK戦が行われます。**

そういうところにもつながっていけばいい、と期待しています

**Q. PK戦の導入とともに、昇降格のないレギュレーションも明治安田Jリーグ百年構想リーグの特徴でした。**

われわれはさまざまなシミュレーションをします。昇降格がなくても通常のリーグ戦と変わらない熱量で試合が行われるのか。それに伴って、観客動員はどうなるのか。正直に明かせば、不安もありました。けれど、ピッチ上のパフォーマンスは何ら変わりなく、観客動員も過去最高だった2025シーズン比で103.6パーセントを記録しました。さらに言えば、昇降格がないので、若い選手を積極的に起用するクラブが見受けられました。そこはすごくポジティブな要素ですね。10代の選手がどれだけ試合に出ているかは、データを見ても昨シーズンまでより増えています。それが明治安田Jリーグ百年構想リーグだったからなのか、それともトレンドが少し変わってきているのかは、注視していかなければならないですが。いずれにしても、若い選手の出場機会が増えているのは、ポジティブな要素に挙げられますね

**Q. 高卒1年目の選手や第2種登録の選手の出場は、新しい興味を提供することにつながります。**

世界のサッカー界で5大リーグと呼ばれるイングランド、スペイン、ドイツ、イタリア、フランスと比較すると、Jリーグは試合に出場している選手の平均年齢が2歳ぐらい高いんです。5大リーグはもちろんヨーロッパの各国リーグでは、将来有望な選手に早くから実戦経験を積ませて、同一リーグの上位クラブや他国のリーグのクラブへ移籍させる、というビジネスが成立しているからです。ある選手を20歳で移籍させるとなったときに、18歳や19歳でどれだけ試合に出ているのかが、評価に大きく影響します。日本人の一般的な感覚では、未知数の18歳より20代後半や30歳の選手の方が計算できる。もちろん勝敗が懸かっている、その時点で勝つために最善の選手を選ぶ。それは否定されるものではありませんが、今回の明治安田Jリーグ百年構想リーグをきっかけに若い選手の起用が変わっていくのかを、しっかりと追跡していきたいですね

**Q. ピッチ上の熱量についていえば、思うような成績を残せずに監督交代へ踏み切ったクラブもありました。どのクラブも目の試合に、全力で挑んでいたのでしょうか。**

半年間の厳しいシーズンでしたから、何らかの形でクラブをサポートしなければならぬ。それが勝利への欲求を促すことにもつながれば、ということで特別助成金と賞金を設定しました。それも均等に配分するのではなく、競争の中で取りにいらおう、という形にしました。明治安田J1百年構想リーグでは、優勝したヴィッセル神戸が2億3100万円、2位の鹿児島アントラースが1億6000万円でした。



**Q. 明治安田J1百年構想リーグの最終的な順位については、大きな驚きをもたらすようなものではありませんでした。一方で、明治安田J2・J3百年構想リーグでは、昨シーズンのJ2で最終節に残留を決めたカターレ富山が2位に、J3からJ2へ昇格したばかりのテゲバジャーロ宮崎が3位に食い込みました。さらには、J3の鹿児島ユナイテッドFCも5位で終えています。**

明治安田J2・J3百年構想リーグは、地域リーグラウンドのグループ分けがまさに地域性に基づいたので、J2のクラブが多いグループがあれば、J3のクラブが多いグループもありました。それが順位に影響したのかもしれませんが、富山はすごくいいサッカーをしていました。チャレンジングな姿勢を持ったクラブが、特にJ2・J3は多かった印象です



**Q. 明治安田J2・J3百年構想リーグでは、J2とJ3のクラブが真剣勝負を戦うという特別な興味を提供しました。**

J2のクラブには、当然ながらプライドがある。そこを刺激する意味で良かったのかな、と。それに対して、J3のクラブはチャレンジですね。J2対J3で点差が開いた試合もありましたけれど、相対的にJ2とJ3の実力差は縮まっている印象です。クラブの売り上げの規模を見ても、J2の中位以下とJ3では、そこまで大きな差はありません

**Q. 明治安田Jリーグ百年構想リーグと並行して、ヴィッセル神戸、サンフレッチェ広島、FC町田ゼルビアがACL Elite2025/26に出場し、3チームともにノックアウトステージへ勝ち上がりました。そして、町田が決勝まで勝ち上がり、惜しくも延長戦の末に優勝を逃しました。Jリーグ勢の決勝進出は、4シーズン連続となります。**

その4シーズンの成績は1勝3敗。アジアの頂点に立つのは簡単ではないけれど、十分に戦えるとも感じています。ひと昔前はACLに出場すると日程が厳しくなり、リーグ戦もACLも狙うのは難しいところがありました。それが今は、どのクラブも本気でアジアのタイトル獲得に向かっていきます

**Q. ACL Eliteとなった2024/25シーズンから、準々決勝以降のファイナルラウンドはサウジアラビアでの集中開催となりました。そして、2024/25シーズンも2025/26シーズンも、同国のアル・アハリ・サウジFCが優勝しました。**

優勝すると1000万ドル、準優勝で400万ドルといった賞金が設定されたことについて、サウジアラビアサッカー協会の貢献はかなりのものがある

ります。かつてのように賞金があまり多くない中でやるのか、それとも金銭的な魅力を高めるか。そのどちらがいいのかは、われわれも、どの国も、理解をしています。サウジアラビアでの集中開催は難しい環境ですが、それでも勝ちにいくんだという考え方で、Jリーグ各クラブは一致しています

**Q. AFCチャンピオンズリーグTwo (ACL Two) 2025/26では、西地区の決勝進出チームのホームでのシングルマッチとなり、くしくもサウジアラビアのリヤドでの開催となりました。その環境下でガンバ大阪が、ポルトガル代表FWのクリスティアーノ・ロナウドを擁するアル・ナスルを1-0で退けました。**

アル・ナスルFCは2025-26シーズンのサウジ・プロリーグの優勝チームです。タイトル獲得に真剣に乗り出しているクラブが増えて、大会の競争力が高まっていく中で、ガンバ大阪は頂点に立った。彼らの戦いぶりを見ても、Jリーグのクラブは自信を持っていいと思うんです



**Q. チェアマンからご指摘があったACLの競争力という意味では、外国籍選手枠が撤廃されたことが大きいのでは。ACL Eliteのラウンド16で広島を破ったジョホール・ダルル・タクジム(マレーシア)などは、さまざまな国の選手がプレーしていました。**

短期的に勝つのなら、外国籍選手を多く抱えるチーム編成でもいいかもしれません。けれど、自国のリーグの発展、サッカー文化の醸成、若い選手の育成といった観点で考えると、中長期的にはわれわれのやり方が成功へつながるのだろう、と信じています

**Q. 2026／27明治安田Jリーグからは、ACL Elite/ACL Twoとスケジュールが並行します。**

明治安田Jリーグ百年構想リーグの終了から数カ月後には、新シーズンのACL Elite/ACL Twoへ挑むことになる。ACL Two優勝で出場権をつかんだガンバ大阪を含めて、直近のJリーグで力を示したチームが出場の権利を獲得できているので、対アジアでの競争力をこれまでよりも発揮しやすいのかな、という期待があります

**Q. 5月26日に2025年度のクラブ経営情報が、先行発表として開示されました。3月および6月決算の7クラブを除いた53クラブの売上高は、前年比112%増の1757億円となりました。**

僕がチェアマンになって2026年で5年目ですが、1年目の2022年度は売上高が1375億円でした。全60クラブでは2100億円超になる見通しです。特にJ1のクラブがしっかりと成長することで、J2の上位クラブ、全60クラブ合計で20番前後ぐらいのクラブも、J1で戦うためにはこのぐらいの売上高がなければいけない、という基準が上がっていく。かつてのJ1では、年間の売上高が50億円のクラブが優勝することがあれば、35億円のクラブが勝つこともあった。その間に、世界のトップリーグとの差が開いてしまった。2025年度は浦和レッズが3年連続で、川崎フロンターレが初めて100億円超となりました。そういうクラブが出てくると『自分たちも負けられない』という意識が広がって、リーグ全体が引っ張られていきます。内向きではなく外向きの視線で、対世界で『もっと成長しなければ』という意識が浸透してきている。J1のクラブはもちろん、J2からJ1を目指すクラブも、すごく努力していると感じます

**Q. その先の一つの目標として、トップクラブの売上高200億円を掲げています。**

現状ではそれぐらいになるといいのだろう、という認識です。UEFA(欧州サッカー連盟)チャンピオンズリーグで数シーズンに一度はベスト8に食い込む、という立ち位置のクラブが200億円から300億円ぐらいの規模なんです。200億円ならラウンド16に残れるぐらいのクラブはつくれる、という見立てです。言い方を変えると、200億円ぐらいの売上高ならば、UEFAチャンピオンズリーグでベスト16に入るようなクラブの選手を、獲得することができます。Jクラブからオファーを受けた選手は、そのクラブの状況、ホームタウン、スタジアムといったことを調べるでしょう。われわれとしてはまず、オファーができる環境をつくり出そう、ということです。そのため、Jリーグと各クラブが一緒に努力をしていきましょう、と

**Q. その言葉通りに、野々村チェアマンは就任からさまざまな施策を打ち出してきました。**

Jリーグの価値、各クラブの価値をもっともっと上げて、新しい収入をつくり出しましょう、というのが基本的なスタンスです。明治安田Jリーグ百年構想リーグでは、地域リーグラウンドで勝点1あたり200万円の特別助成金を配分しましたが、勝てばお金が入る仕組みは必要でしょう。並行してJリーグの価値を高めていくためのアイデアを、もっともっと出していかなければ。例えば、放映権についてはまだまだできることがある。5大リーグと



の大きな差は、そこにあったりしますので

**Q. 海外へどんどんと販売していく、ということでしょうか。**

それもちろんありますが、それはもうちょっと先かな、というのが個人的な感覚です。国内の放映権の価値を、まだまだ上げられると考えています

**Q. そうやってJリーグの価値を高めていくと、Jリーグのクラブから日本代表に選ばれる選手も増えていくことが期待されます。チェアマンは10年後のJリーグが目指す姿として「日本代表におけるJリーグ選手の割合を30%に、つまり26人なら8人に」としています。**

これについては目標というよりも、リーグのサイズで決まってくるのでしょうか。ヨーロッパのリーグに近づいていけば、必然的にそうなるのでしょうか。FIFAワールドカップ2026™の出場国でいうと、イングランドはプレミアリーグでプレーする選手が21人。ドイツはブンデスリーガでプレーする選手が19人。スペインはラ・リーガのクラブでプレーするのが17人。一方、国内リーグでプレーするのは、フランスは8人、オランダは2人、ベルギーは3人です。南米ではアルゼンチンが2人。ブラジルはネイマールらのベテランが、ヨーロッパのクラブから自国へ戻っているのが7人です。監督によって選手選考が変わってくるという大前提はあるものの、リーグのサイズとかその価値が高くなれば、代表チームに選ばれる選手の数はずっと増えていく、ということがはっきりしています

**Q. 数字に表れていますね。**

フランスの8人のうち、5人はパリ・サンジェルマン(PSG)所属です。PSGのように国際的に活躍するチームが日本に3つ生まれたら、1チームから2人ずつ、プラスアルファで8人、ということになるかもしれない。あるいは、今回のフランス代表のように、1チームから5人選ばれることがあるかもしれない。どちらがいいとかいうことではなく、さまざまなパターンが考えられますが、自国のリーグからFIFAワールドカップの代表に選ばれる選手が増えて、PSGのように5人、6人と代表に送り込むクラブが出てきたら、ACL Eliteを勝ち抜いてFIFAクラブワールドカップに出場する、出場するだけ

でなく上位へ進出できる、というところにもつながっていくでしょう

**Q. クラブの規模、リーグの規模が大きくなっていけば、アジアはもちろん世界におけるプレゼンスが高まっていく、ということですね。さて、来る2026／27明治安田Jリーグへ向けて、J1の清水エスパルス、ガンバ大阪、ファジアーノ岡山、V・ファーレン長崎、J2のRB大宮アルディージャが、欧州でキャンプを行います。J1リーグの4つのクラブについては、新設された欧州キャンプ助成金制度の対象クラブです。**

例えば、ファジアーノ岡山はオーストリアでキャンプを実施し、ドイツ・ブンデスリーガ1部のヴェルダー・ブレーメンをはじめとして、トレーニングマッチを数試合組んでいますね。また、同じ施設でキャンプをしている他クラブは、どのようなトレーニングメニューを組んでいるのか、といったものを知ることができるでしょう。監督以下スタッフも、フロントも、多くの気づきを得ることができるのでは。ヨーロッパのクラブのスタンダードを認識したり、自分たちのネットワークを広げたりする好機になればと思います

**Q. それでは最後に、来る2026／27明治安田Jリーグへの期待を聞かせてください。**

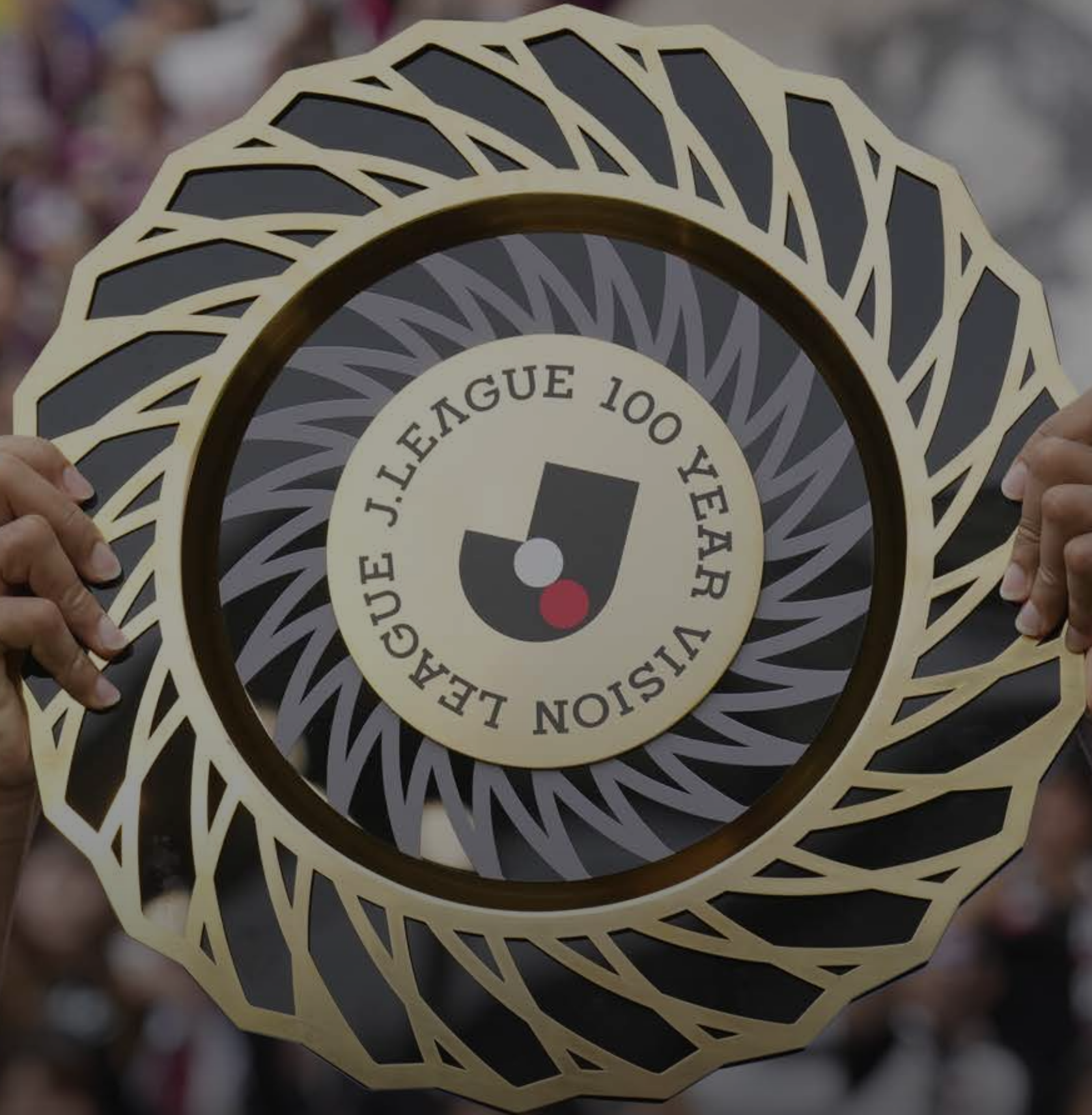
僕自身はこれまでの延長線上で、十分に魅力のあるものになるだろうと考えます。5大リーグと呼ばれるリーグは、サッカー専用のスタジアムが多くて、スタジアムの雰囲気素晴らしい。ひるがえってJリーグのスタジアムは、きれいで、安全で、安心して観戦することができる。われわれならではのアドバンテージは、実は少なくない。インバウンド需要がこれだけあるのだから、地域的なデメリットは気にしなくてもいいのでは、とも思います。日本人選手がヨーロッパのクラブへこれだけ多く移籍していることから、選手育成のシステムが非常にしっかりしていることも分かる。自分たちの長所を自覚して、もっともっと魅力あるリーグにしていきたいですね

文 戸塚 啓

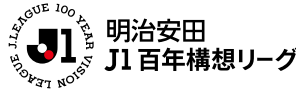
※掲載情報は2026年6月30日時点のものです

# 2026 Special Season Result

2026特別シーズン全大会の競技結果



明治安田J1百年構想リーグ



| FINAL STANDINGS 最終順位表 |           |    |             |
|-----------------------|-----------|----|-------------|
| 順位                    | クラブ       | 順位 | クラブ         |
| 1                     | ヴィッセル神戸   | 11 | ファジアーノ岡山    |
| 2                     | 鹿島アントラーズ  | 12 | 浦和レッズ       |
| 3                     | セレッソ大阪    | 13 | 横浜F・マリノス    |
| 4                     | FC東京      | 14 | 清水エスパルス     |
| 5                     | FC町田ゼルビア  | 15 | 柏レイソル       |
| 6                     | 名古屋グランパス  | 16 | 京都サンガF.C.   |
| 7                     | サンフレッチェ広島 | 17 | V・ファーレン長崎   |
| 8                     | 川崎フロンターレ  | 18 | 水戸ホーリーホック   |
| 9                     | ガンバ大阪     | 19 | アビスパ福岡      |
| 10                    | 東京ヴェルディ   | 20 | ジェフユナイテッド千葉 |

REGIONAL ROUND STANDINGS

地域リーグラウンド順位

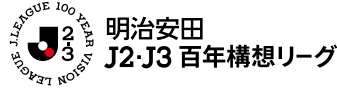
順位、クラブ名、勝点のみを掲載しています。

| EAST |             |    | WEST |           |    |
|------|-------------|----|------|-----------|----|
| 順位   | クラブ         | 勝点 | 順位   | クラブ       | 勝点 |
| 1    | 鹿島アントラーズ    | 45 | 1    | ヴィッセル神戸   | 35 |
| 2    | FC東京        | 37 | 2    | セレッソ大阪    | 31 |
| 3    | FC町田ゼルビア    | 37 | 3    | 名古屋グランパス  | 31 |
| 4    | 川崎フロンターレ    | 28 | 4    | サンフレッチェ広島 | 30 |
| 5    | 東京ヴェルディ     | 28 | 5    | ガンバ大阪     | 28 |
| 6    | 浦和レッズ       | 25 | 6    | ファジアーノ岡山  | 26 |
| 7    | 横浜F・マリノス    | 20 | 7    | 清水エスパルス   | 24 |
| 8    | 柏レイソル       | 20 | 8    | 京都サンガF.C. | 23 |
| 9    | 水戸ホーリーホック   | 18 | 9    | V・ファーレン長崎 | 21 |
| 10   | ジェフユナイテッド千葉 | 12 | 10   | アビスパ福岡    | 21 |

J1の20クラブが10クラブずつEASTとWESTに分かれてホーム&アウェイの2回戦総当たりリーグ戦を行い、それぞれの同順位同士がホーム&アウェイで対戦して最終順位を決めた。地域リーグラウンドでは、EASTは2025シーズン優勝の鹿島アントラーズがFC東京に勝点8差をつけて首位。接戦となったWESTは最後にヴィッ

セル神戸が抜け出した。また、プレーオフラウンド第1戦では、ホームの神戸が大迫勇也のハットトリックなどで5-0の大勝。アウェイの第2戦は意地を見せる鹿島に0-2と敗れたものの、2試合合計5-2のスコアで優勝。AFCチャンピオンズリーグElite 2026/27への出場権も獲得した。

明治安田J2・J3百年構想リーグ



| FINAL STANDINGS |     |             |  | 最終順位表 |     |            |  |
|-----------------|-----|-------------|--|-------|-----|------------|--|
| 順位              | クラブ |             |  | 順位    | クラブ |            |  |
| 1               |     | ベガルタ仙台      |  | 21    |     | ガイナーレ鳥取    |  |
| 2               |     | カターレ富山      |  | 22    |     | FC岐阜       |  |
| 3               |     | テゲバジャーロ宮崎   |  | 23    |     | ツエーゲン金沢    |  |
| 4               |     | ヴァンフォーレ甲府   |  | 24    |     | ザスパ群馬      |  |
| 5               |     | 鹿児島ユナイテッドFC |  | 25    |     | 奈良クラブ      |  |
| 6               |     | ブラウブリッツ秋田   |  | 26    |     | 松本山雅FC     |  |
| 7               |     | アルビレックス新潟   |  | 27    |     | 大分トリニータ    |  |
| 8               |     | 北海道コンサドーレ札幌 |  | 28    |     | モンテディオ山形   |  |
| 9               |     | 徳島ヴォルティス    |  | 29    |     | 栃木シティ      |  |
| 10              |     | いわきFC       |  | 30    |     | レイラック滋賀FC  |  |
| 11              |     | サガン鳥栖       |  | 31    |     | FC大阪       |  |
| 12              |     | 湘南ベルマーレ     |  | 32    |     | ジュビロ磐田     |  |
| 13              |     | 横浜FC        |  | 33    |     | 福島ユナイテッドFC |  |
| 14              |     | レノファ山口FC    |  | 34    |     | FC琉球       |  |
| 15              |     | RB大宮アルディージャ |  | 35    |     | FC今治       |  |
| 16              |     | 高知ユナイテッドSC  |  | 36    |     | ヴァンラーレ八戸   |  |
| 17              |     | SC相模原       |  | 37    |     | AC長野パルセイロ  |  |
| 18              |     | ロアッソ熊本      |  | 38    |     | カマタマーレ讃岐   |  |
| 19              |     | 藤枝MYFC      |  | 39    |     | 栃木SC       |  |
| 20              |     | 愛媛FC        |  | 40    |     | ギラヴァンツ北九州  |  |

REGIONAL ROUND STANDINGS

地域リーグラウンド順位

順位、クラブ名、勝点のみを掲載しています。

| EAST-Aグループ |                                                                                               |    |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 順位         | クラブ                                                                                           | 勝点 |
| 1          |  ベガルタ仙台    | 43 |
| 2          |  ブラウブリッツ秋田 | 35 |
| 3          |  湘南ベルマーレ   | 31 |
| 4          |  横浜FC      | 29 |
| 5          |  SC相模原     | 28 |
| 6          |  ザスパ群馬     | 23 |
| 7          |  モンテディオ山形  | 22 |
| 8          |  栃木シティ     | 21 |
| 9          |  ヴァンラーレ八戸  | 20 |
| 10         |  栃木SC      | 18 |

| EAST-Bグループ |                                                                                                 |    |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 順位         | クラブ                                                                                             | 勝点 |
| 1          |  ヴァンフォーレ甲府   | 35 |
| 2          |  北海道コンサドーレ札幌 | 31 |
| 3          |  いわきFC       | 31 |
| 4          |  RB大宮アルディージャ | 30 |
| 5          |  藤枝MYFC      | 30 |
| 6          |  FC岐阜        | 28 |
| 7          |  松本山雅FC      | 26 |
| 8          |  ジュビロ磐田      | 25 |
| 9          |  福島ユナイテッドFC  | 18 |
| 10         |  AC長野パルセイロ   | 16 |

| WEST-Aグループ |                                                                                                  |    |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 順位         | クラブ                                                                                              | 勝点 |
| 1          |  カターレ富山     | 38 |
| 2          |  アルビレックス新潟  | 35 |
| 3          |  徳島ヴォルティス   | 32 |
| 4          |  高知ユナイテッドSC | 30 |
| 5          |  愛媛FC       | 28 |
| 6          |  ツエーゲン金沢    | 27 |
| 7          |  奈良クラブ      | 21 |
| 8          |  FC大阪       | 20 |
| 9          |  FC今治       | 20 |
| 10         |  カマタマーレ讃岐   | 19 |

| WEST-Bグループ |                                                                                                   |    |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 順位         | クラブ                                                                                               | 勝点 |
| 1          |  テゲバジャーロ宮崎   | 47 |
| 2          |  鹿児島ユナイテッドFC | 33 |
| 3          |  サガン鳥栖       | 32 |
| 4          |  レノファ山口FC    | 29 |
| 5          |  ロアッソ熊本      | 27 |
| 6          |  ガイナーレ鳥取     | 27 |
| 7          |  大分トリニータ     | 22 |
| 8          |  レイラック滋賀FC   | 21 |
| 9          |  FC琉球        | 17 |
| 10         |  ギラヴァンツ北九州   | 15 |

J2、J3の40クラブを10クラブずつEAST-A、EAST-B、WEST-A、WEST-Bの4グループに分け、それぞれホーム&アウェイの2回戦総当たりリーグ戦後、同順位の4クラブが最終順位を争った。各グループで首位となったベガルタ仙台（J2）、ヴァンフォーレ甲府（J2）、カターレ富山（J2）、テゲバジャーロ宮崎（J2）による1回戦制のプレーオフラウンドで、1-4位決定戦を勝ち抜いたのは仙台だった。まず、甲府に1-0と競り勝つと、宮崎を同じスコアで下した富山と

タイトルを懸けて対決。前半30分に中田有祐が先制し、アディショナルタイム4分の土壇場に1-1と追いつかれたものの、PK戦を4-2と制して歓喜の瞬間を迎えた。また、明治安田J1百年構想リーグも含めた最多得点者に与えられる「釜本邦茂賞」は、15得点を挙げた奈良クラブ（J3）の田村翔太が受賞した。

# ACL Elite

アジア王者を目指してFC町田ゼルビア、ヴィッセル神戸、サンフレッチェ広島が参加。アジアを東西に分けた東地区のリーグステージで、それぞれが首位から3位を占めた。広島がラウンド16で敗退後、準々決勝以降はサウジアラビアで開催。神戸は準決勝で敗れたものの、町田が日本勢4大会連続となる決勝進出。地元のアルア



ハリ・サウジFCと延長戦にもつれ込む接戦で0-1と惜敗も、初出場で準優勝という見事な成績を収めた。また、町田のGK谷 晃生が大会のベストGK賞、広島がフェアプレー賞を受賞した。

# ACL Two

ガンバ大阪が初優勝で、2008年のAFCチャンピオンズリーグ以来、18年ぶりとなるアジアのタイトルを獲得した。グループステージを6戦全勝で突破したチームは、ラウンド16から接戦を制して勝ち上がる。サウジアラビアで地元のアル・ナスルFCと対戦した決勝



は、30分にデニス ヒュメットが先制点をマーク。シュート数で3-20と押し込まれるも、1-0で逃げ切った。大会の最優秀選手には、ガンバ大阪のイッサム ジェバリが選ばれた。

# JリーグオールスターDAZNカップ



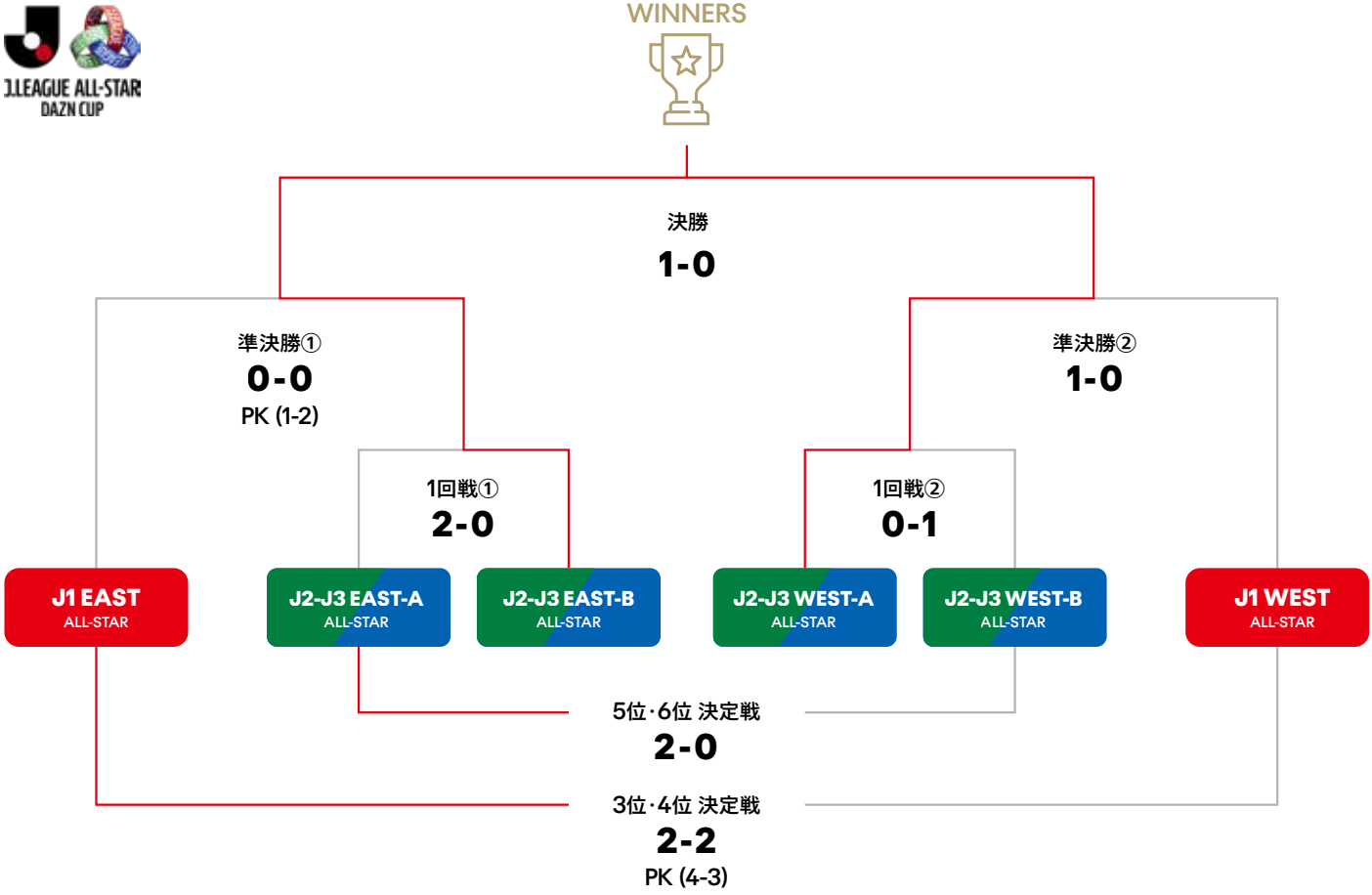
2026年6月13日(土)、17年ぶりのJリーグオールスターとなる「JリーグオールスターDAZNカップ」がMUFGスタジアム(国立競技場)で開催。出場選手はファン・サポーター投票と明治安田Jリーグ百年構想リーグの各地域グループのベストイレブンから選出(ファン・サポー

ター投票、表彰選考委員会、ポジションバランスなどを考慮して、Jリーグ推薦での追加選出もあり)。明治安田Jリーグ百年構想リーグにおける6つのグループを代表し、J1・J2・J3の全60クラブから、総勢194人の選手が集結した。



2026年6月13日(土)、17年ぶりのJリーグオールスターとなる「JリーグオールスターDAZNカップ」がMUFGスタジアム(国立競技場)で開催。出場選手はファン・サポーター投票と明治安田Jリーグ百年構想リーグの各地域グループのベストイレブンから選出(ファン・サポー

ター投票、表彰選考委員会、ポジションバランスなどを考慮して、Jリーグ推薦での追加選出もあり)。明治安田Jリーグ百年構想リーグにおける6つのグループを代表し、J1・J2・J3の全60クラブから、総勢194人の選手が集結した。



また本試合では、2026年のJリーグ主催試合において最多となる、60,158人の入場者数を記録。スタジアム内にはさまざまな色のユニフォームをまとったファン・サポーターが集まり、普段の試合ではなかなか見ることのない光景が広がっ



※掲載情報は2026年6月30日時点のものです



# 2026 Special J.LEAGUE

2026特別シーズンを振り返る



FEBRUARY

## 一度きりの 特別大会が開幕

一度きりの特別大会となる「明治安田Jリーグ百年構想リーグ」開幕。開幕節のV・ファーレン長崎 vs. サンフレッチェ広島はピースマッチとして開催された。

APRIL

## FC町田ゼルビアが ACL Elite準優勝

FC町田ゼルビアが「AFCチャンピオンズリーグエリート2025/26」で初出場ながら決勝に進出。激闘の末、アルアハリ・サウジFC(サウジアラビア)に0-1で敗れて準優勝。



MAY

## ガンバ大阪が ACL Two初優勝

ガンバ大阪が「AFCチャンピオンズリーグTwo 2025/26」で初優勝。クラブとしては国内と合わせて10個目となる主要タイトルを獲得した。



MAY

## シャレン!アウォーズを開催

「2026Jリーグシャレン!アウォーズ」を開催。地域とクラブが重ねてきた活動をたたえ、ピッチ外で広がるJリーグの価値を共有する場となった。



JUNE

## ベガルタ仙台が 明治安田J2・J3 百年構想リーグ優勝

ベガルタ仙台が明治安田J2・J3百年構想リーグ優勝。プレーオフラウンド第2戦ではカターレ富山とPK戦までもつれ込んだ激闘を制す。



JUNE

## ヴィッセル神戸が 明治安田J1 百年構想リーグ優勝

ヴィッセル神戸が、プレーオフラウンド2試合の合計5-2のスコアで、鹿島アントラーズを破り明治安田J1百年構想リーグ優勝を飾る。



JUNE

## 17年ぶりの Jリーグオールスター

「JリーグオールスターPROJECT」が始動。その一つである、「Jリーグオールスター-DAZNカップ」ではJリーグオールスターとしては17年ぶりの開催となり、総勢194人の選手が集結。2026年のJリーグ主催試合において最多となる、60,158人の入場者を記録した。

※掲載情報は2026年6月30日時点のものです

# 2026特別シーズンにおける フットボール

競技面から百年構想リーグを振り返る

データから見る明治安田Jリーグ百年構想リーグ



1 選手の出場機会

明治安田Jリーグ百年構想リーグにおいては、10代の選手が出場機会を得る傾向が見られた

10代の選手の出場機会

| 項目                                         | 2025シーズン | 2026シーズン |
|--------------------------------------------|----------|----------|
| 公式戦に出場した選手の人数                              | 57人／201人 | 88人／203人 |
| 1試合あたりの10代の選手の出場人数<br>(=10代の選手ののべ出場人数／試合数) | 0.68人    | 1.13人    |
| 1試合あたりの10代の選手の出場時間<br>(=10代の選手ののべ出場時間／試合数) | 29.383分  | 51.218分  |

※2025シーズンは明治安田Jリーグ、JリーグYBCルヴァンカップ、2026特別シーズンは明治安田Jリーグ百年構想リーグにおける数値  
※2025シーズンは2025年12月31日、2026特別シーズンは2026年6月30日において満年齢19歳以下の選手が対象

10代の選手の出場時間TOP10

※年齢は2026/6/30時点

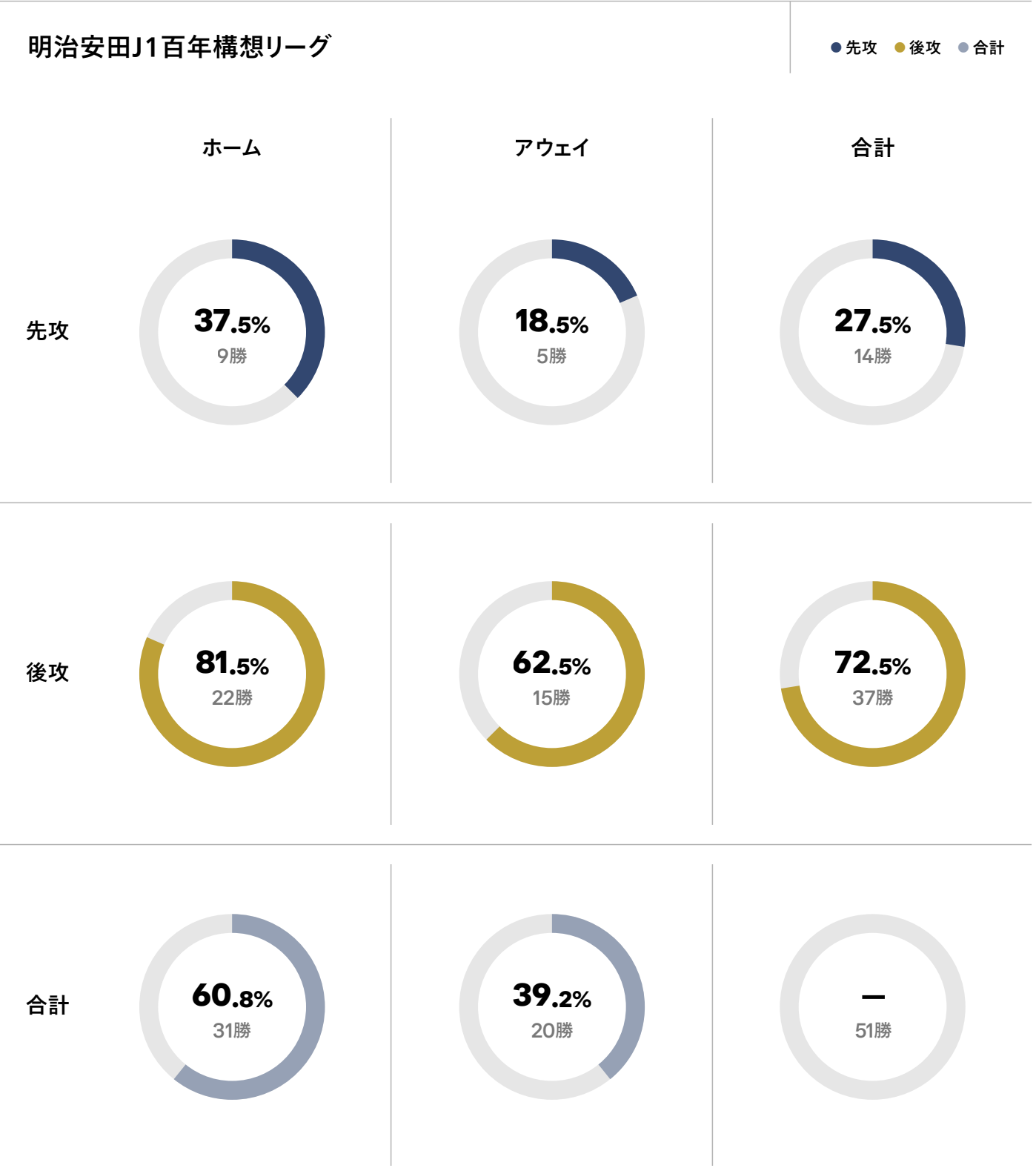
| 選手名    | チーム名 | ポジション | 誕生日        | 年齢 | 出場試合数 | 出場時間(分) | ゴール数 |
|--------|------|-------|------------|----|-------|---------|------|
| 中野 陽斗  | いわき  | DF    | 2007/5/6   | 19 | 17    | 1480    | 0    |
| 尹 星俊   | 京都   | MF    | 2007/5/4   | 19 | 18    | 1467    | 0    |
| 佐藤 龍之介 | FC東京 | MF    | 2006/10/16 | 19 | 19    | 1301    | 6    |
| 笹 修大   | 今治   | MF    | 2006/8/31  | 19 | 17    | 1282    | 0    |
| 佐藤 海宏  | 新潟   | DF    | 2007/2/26  | 19 | 15    | 1136    | 0    |
| 木吹 翔太  | いわき  | MF    | 2006/8/19  | 19 | 19    | 1121    | 2    |
| 亀田 歩夢  | 富山   | MF    | 2006/12/19 | 19 | 18    | 1110    | 6    |
| 吉原 楓人  | 北九州  | FW    | 2006/9/20  | 19 | 16    | 990     | 2    |
| 嶋本 悠大  | 清水   | MF    | 2006/10/26 | 19 | 12    | 829     | 3    |
| 栗栖 汰志  | 藤枝   | GK    | 2006/9/17  | 19 | 9     | 810     | 0    |

2 PK戦

明治安田Jリーグ百年構想リーグで導入された、PK戦に関するデータ。J1ではアウェイよりもホームの方が約20%、先攻よりも後攻の方が約45%、勝率が高い傾向が見られた。一方でJ2・J3についてはいずれも大きな差はない数値となった。

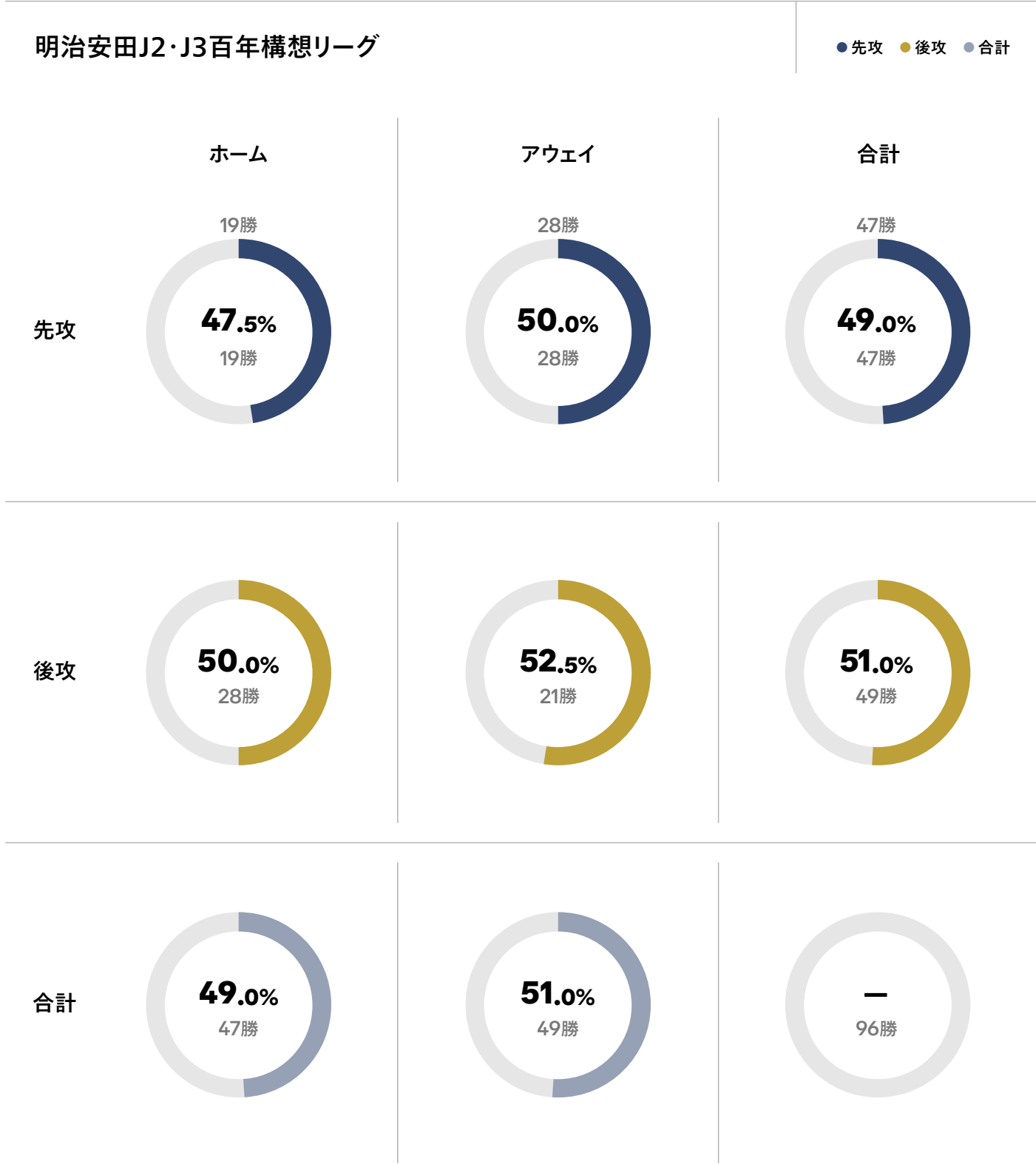
また、利き足による蹴る方向は右利き、左利き共に蹴り足と逆方向を選択する傾向にあり、枠内率は同等であったが、成功率については右利きの選手が左に蹴ったパターンが、他パターンと比較するとやや低い傾向にあった。

先攻と後攻の勝率・ホームとアウェイの勝率

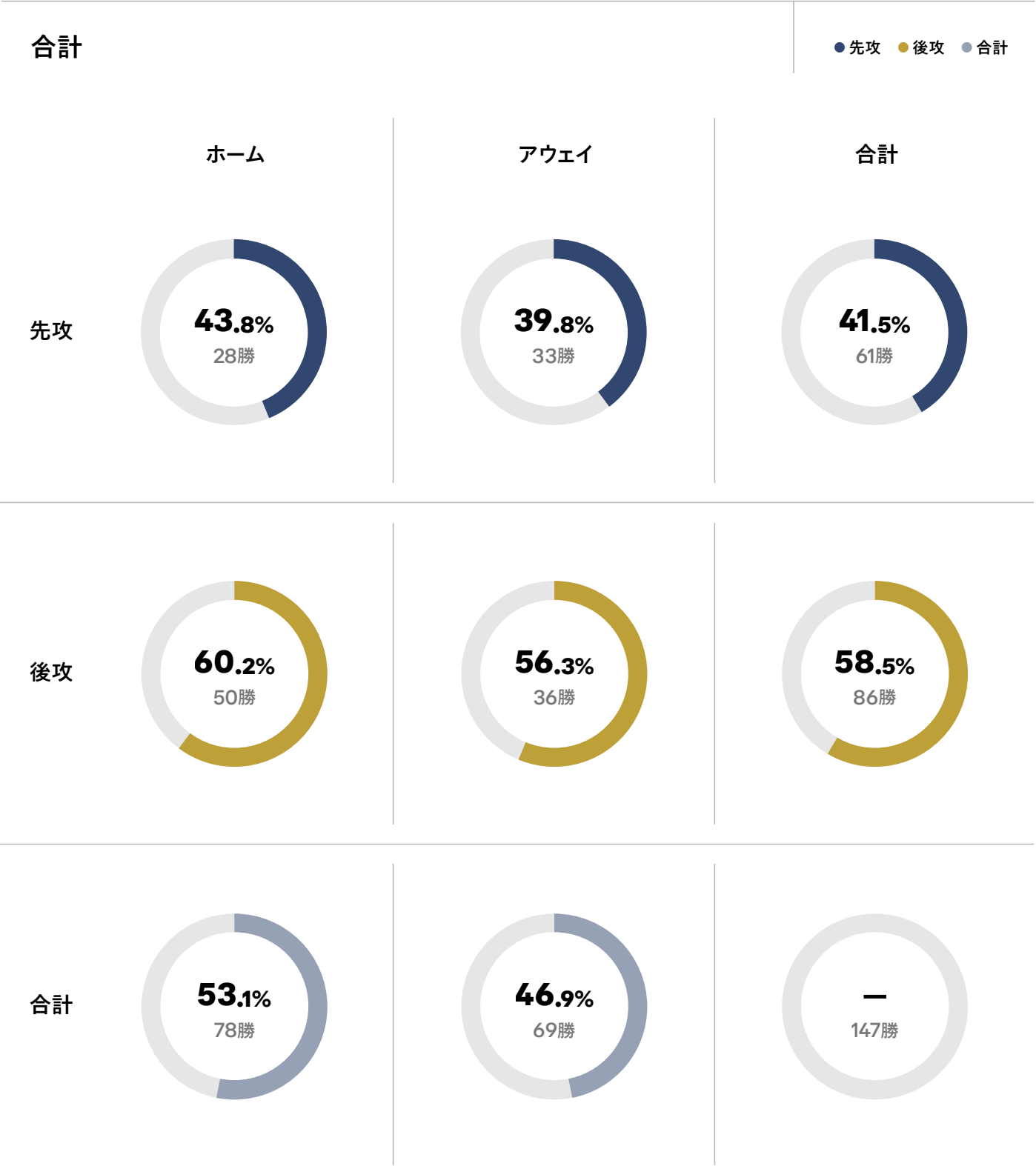


先攻と後攻の勝率・ホームとアウェイの勝率

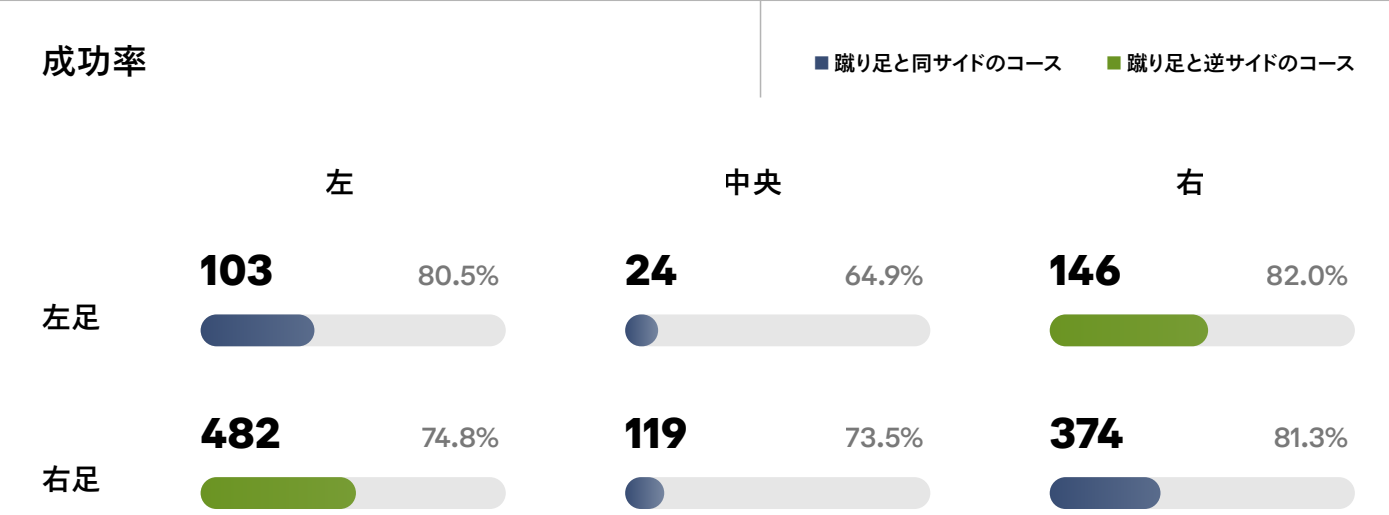
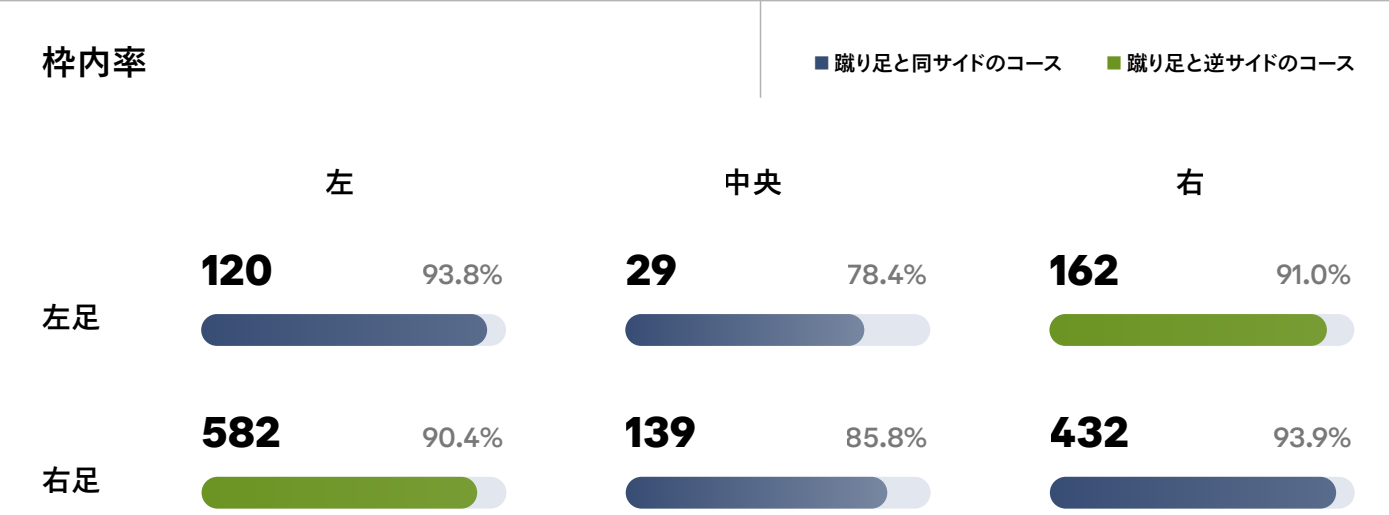
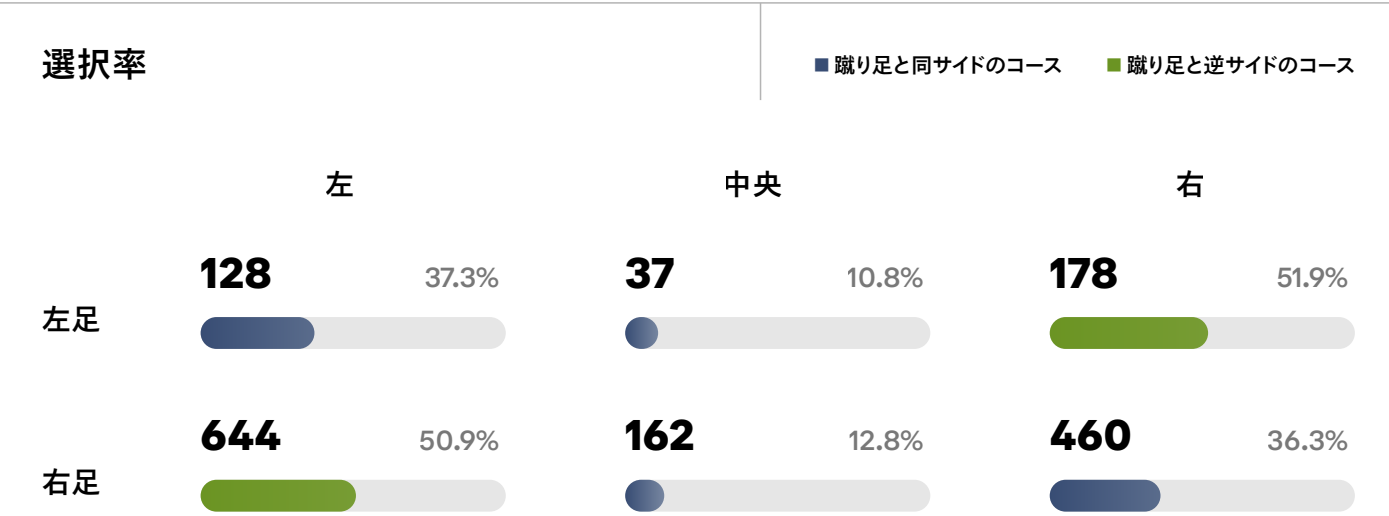
PK戦勝利数(プレーオフラウンドも含む)／PK戦勝率(プレーオフラウンドも含む)



PK戦勝利数(プレーオフラウンドも含む)／PK戦勝率(プレーオフラウンドも含む)



先攻と後攻の勝率・ホームとアウェイの勝率



グローバルフットボールアドバイザー活動

1 海外指導者招聘プロジェクト

世界トップのフットボール水準の考え方や指導方法などを浸透させることを目的に、欧州の強豪クラブで長年にわたり監督経験を積んだロジャー・シュミット氏が、アカデミー世代の現場指導や指導者（監督、コーチ）・スポーツingダイレクター向けのセミナー、JリーグやJクラブへの知見の共有などを行った。

2026特別シーズンの活動概要（5月末時点）

|    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| 2月 | スポーツingダイレクター向けのプログラム開催 31クラブ・58人参加 |
| 5月 | クラブ訪問&監督対談 5クラブ・126人参加              |
| 6月 | 実行委員向けFIFAワールドカップセッションを実施           |

※3月のU-16 Jリーグ選抜ドイツ遠征は中東情勢により中止

特設ページの開設

ロジャー・シュミット氏による、指導者向け実践メソッドをグローバルフットボールアドバイザー特設ページで公開



グローバルフットボールアドバイザープロジェクト



# 審判改革（育成枠制度の導入）

## 育成枠制度の開始

将来的に世界トップで活躍できる審判の育成を目的に、若い年代から審判活動に専念できる環境を整え、集中的に育成する早期育成制度を日本サッカー協会（JFA）と共同で開始。  
本プログラムのダイレクターとして、アイルランドサッカー協会審判コンサルタントや国際サッカー評議会（IFAB）のテクニカルパネル

メンバーなどを務めるマイク・ライリー（イングランド）氏を招き、少人数制の密なトレーニングやレフェリングに関する座学、試合割当のフィードバックなど、早期養成のためのプログラムを実施した（2026特別シーズンは6人を採用）

### 活動概要

|         |                                                                  |
|---------|------------------------------------------------------------------|
| キャンプの実施 | ・ 2026特別シーズンは計5回実施<br>キャンプの内容は、英語での座学、割当試合のフィードバック、フィジカルトレーニングなど |
| 海外派遣    | ・ インドネシア（JFL相当のリーグ戦）／アメリカ（ダラスカップ）／香港（JFL相当のリーグ戦）の割当              |
| 国内試合の割当 | ・ JFL～明治安田J2・J3百年構想リーグの割当                                        |

※JFAでは育成枠制度の活動に関わる事業体を「ディベロップメントグループ」と表現

## マッチクオリティアセッサー（MQA）

### トライアル運用開始

審判のレフェリング向上と試合の質の向上を目的に、試合の判定について選手OBが審判員と意見交換を行う  
マッチクオリティアセッサー（MQA）制度のトライアル運用を開始した。

| 項目                     | 内容        |
|------------------------|-----------|
| MQA人数                  | 24人       |
| MQA派遣試合数               | 69試合      |
| PR（プロフェッショナルレフェリー）キャンプ | 3回（10人）参加 |

|              |                                                                              |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 審判マネージャーからの声 | ・ 選手への声がけのタイミングや声がけの中身のアドバイスが有益だった<br>・ 選手心理やプレー意図、チーム戦術についてのインプットが非常に参考になった |
| クラブからの反響     | ・ クラブから言いづらいフットボーラー目線の意見がレフェリーに届くことは非常にポジティブ<br>・ 日本のフットボールの発展のために非常に有益だった   |

|          |                                                                                                                                                            |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| MQAからの反響 | ・ PRは納得感のあるレフェリングが多く、むしろ若手審判員向けやビデオアシスタントレフェリー（VAR）がないJ2やJ3にMQAの活動範囲を拡大してもいいのではないかと思った<br>・ 審判員の視点を知ることは選手にとっても有益なので、現役選手にどうやってそれを届けるのか、といった観点での施策も必要かと思った |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



※掲載情報は2026年6月30日時点のものです



# 2026特別シーズンにおける マーケティング

事業面から百年構想リーグを振り返る

## TOPIC1 入場者数

## 前年比103.6%の入場者数を記録

「ハーフシーズン」「特別大会」という特殊な状況下ではあったものの、前年比103.6%の入場者数を記録、過去最高入場者数となった2025シーズンを超える推移をした（前年比基準は、2025シーズン各クラブのホームゲーム9試合実施における入場者数総計）。プレーオフラウンドを含む明治安田Jリーグ百年構想リーグ全体での

総入場者数は650万人超となり、JリーグYBCルヴァンカップなどのカップ戦が実施されない中の数値として、2025シーズン（同1,350万人）と同等以上といえる。

その要因として、開幕節から数節にわたる大規模ギブアウェイ

|         | 入場者数比較   | 特別シーズン     | 2025年      | 前年比    |
|---------|----------|------------|------------|--------|
| J1～J2合算 | 平均（同節時点） | 11,005人    | 10,625人    | 103.6% |
|         | 累計（同節時点） | 5,942,648人 | 5,737,317人 |        |
| J1      | 平均（同節時点） | 21,341人    | 20,002人    | 106.7% |
|         | 累計（同節時点） | 3,841,298人 | 3,600,278人 |        |
| J2      | 平均（同節時点） | 7,370人     | 8,086人     | 91.2%  |
|         | 累計（同節時点） | 1,326,666人 | 1,455,430人 |        |
| J3      | 平均（同節時点） | 4,304人     | 3,787人     | 113.7% |
|         | 累計（同節時点） | 774,684人   | 681,609人   |        |

## TOPIC2 テレビ露出

## 百年構想リーグ終盤戦～オールスター～ワールドカップの流れでメディア露出が急増

1～4月までは冬季オリンピック、ワールドベースボールクラシックなどの外的影響で露出量は前年を下回っていたが（1～4月累計が前年比77%）、5月はJリーグオールスターDAZNカップ、Jリーグの日、選手OBの露出が増加し、単月では前年比2.4倍に増加。6月は

FIFAワールドカップ関連の露出が大幅に増加し、累計で前年同時期超えとなっている。

また、全国的にローカル放送局も含め、露出量は堅調に推移している。

## TOPIC3 テレビ露出

## IPコラボレーション施策

人気サッカー漫画「キャプテン翼」「ブルーロック」「アオアシ」とのトリプルコラボレーションにて、全60クラブ+Jリーグ版という計61種類のブランケットを制作。2～3月の開幕期に全国の会場でギブアウェイ施策として、計76万枚を配布した。

この施策の後押しもあり、開幕期の入場者数は高水準で安定。2026特別シーズンの好調な入場者数を支える大きな要因の一つとなった。



キャプテン翼:©高橋陽一／集英社  
ブルーロック:©金城宗幸／村優介／講談社  
アオアシ:©小林有吾／小学館

## TOPIC4 企業コラボレーション施策

## ナショナルブランドとのコラボレーションでJリーグ・Jクラブのロゴ・プロパティがより身近に

2月には、明治安田Jリーグ百年構想リーグオフィシャルエクイップメントパートナーであるユニクロとのコラボレーションにより、Jリーグ全60クラブのエンブレム・ロゴ・マスコットなどのスタンプを使用し、UTme!のTシャツをはじめとしたオリジナルグッズが作れる施策を展開。「自分の好きな位置に好きなスタンプを押して、オリジナルデザインが作れる」という特長が好評となり、多くのファン・サポーターに楽しんでいただいた。

また4月には、明治安田Jリーグ百年構想リーグトップパートナーであるサントリー株式会社の「サントリー生ビール」とコラボレーションし、4月21日から全国のコンビニエンスストアで「明治安田J1百年構想リーグ 記念デザイン缶」を数量限定で販売。J1全20クラブのエンブレムがあしらわれたサントリー生ビール缶が、全国の店頭に並んだ。さらに好きなクラブのジョッキなどが当たるキャンペーンの実施により、ファンエンゲージメントの醸成を図った。



## TOPIC5 「J.LEAGUE FANTASY CARD」のサービス開始

## 公式サービスをパートナー企業と協業して試合観戦の楽しみ方を広げる

Jリーグサポーティングカンパニーである株式会社マイネットと協業し、Jリーグ公式の新サービス「J.LEAGUE FANTASY CARD」を、2026年1月14日にローンチした。

Jリーグ公式デジタルカードを活用したWEBアプリケーションで、J1に所属する全選手がデジタルトレカに登場。自分が選んだ選手の実際の試合におけるプレー内容（出場、ゴール、アシスト、警告など）に応じて、ゲーム内ポイントが変動する仕組み。

ユーザーは、選手の活躍や試合での動向を追いながら楽しみ、普段応援しているクラブ以外の試合視聴や、高レアリティカードのコレクションなど、試合観戦の楽しみ方の広がりに繋がった。



## TOPIC6 JFAと共同プロモーション施策

## JリーグとSAMURAI BLUEをつなぐ「街の誇りを、世界へ。」

日本サッカー協会（JFA）と共同で、FIFAワールドカップ2026™と2026/27シーズン開幕に向けた、過去最大規模となる共同施策を展開した。

Jリーグ出身でワールドカップ出場のSAMURAI BLUE（日本代表）に選出された選手を起用したプロモーション動画を制作し、双方の公式YouTubeチャンネルなどのオウンドメディアで発信する

他、テレビCMやOOH（屋外広告）も大規模に展開。Jリーグアカウントからの投稿は、6月30日時点で7,366リポスト／2.3万いいね／702.9万imp、JFAアカウントからの引用リポスト投稿は1,214リポスト／5,515いいね／117.7万impを記録した。クラブやファン・サポーターの投稿も含めた総リーチ数は2,400万imp超となり、ワールドカップへの関心醸成に寄与した。



YouTube

※掲載情報は2026年6月30日時点のものです



# 2026特別シーズンにおける 他事業

パートナー事業とサステナビリティの取り組みを振り返る

# パートナー事業本部の取り組み

## パートナー戦略:パートナー制度の再設計

Jリーグの協賛金額・協賛社数共に増加傾向にあることを受け、パートナー企業に対する協賛価値の向上を目的として、2026/27シーズン以降のあるべきパートナーシップの将来像を策定。Jリーグパートナー制度の再設計に取り組んだ。

※2026/27シーズンのパートナー契約より適用

### 主な変更点

#### パートナーカテゴリの新設・ 枠組みの見直し

Jリーグが主催する大会(明治安田Jリーグ、Jリーグ ヤマザキビスケット ルヴァンカップなど)と直接紐づく「Jリーグオフィシャルパートナー枠」と、より広義にJリーグの活動全体で連携を図る「Jリーグサポーターティングパートナー枠」に再編。  
「Jリーグオフィシャルパートナー枠」では、「Jリーグタイトルパートナー」「Jリーグプラチナパートナー」「Jリーグゴールドパートナー」の3つにパートナーカテゴリを再編成し、パートナー各社の協賛目的や事業ニーズに沿った権益付与を行う。

※J1～J3のトップカテゴリ(一部大会等を除く)が対象

「Jリーグサポーターティングパートナー枠」では、協賛社が増える中で、Jリーグとパートナー各社との取り組みをより分かりやすく伝えることを目指し、「ビジネス領域」「メディア&エンターテインメント領域」「フットボール領域」「サステナビリティ領域」への再編成を行った。

#### パートナーカテゴリの新設・ 枠組みの見直し

「エモーショナル・トランスファー(Jリーグのファン・サポーターからJリーグパートナーへの好意的な態度変容)の実現」をコンセプトに、Jリーグがパートナー各社に提供する権益の質・量の改善を図る。

いずれの施策も、パートナーシップの拡張性を高めることで、各社との連携をより最適化し、相乗効果を高めていくことを目指す。

## サステナビリティの取り組み

### 1 Sport Positive Leaguesの始動

1月28日に開催された「Jリーグ サステナビリティカンファレンス 2026」において、2025年4月にアジアで初となる参加表明をしたSport Positive Leagues(SPL)が始動。  
SPL創設者のクレア・プール氏と、英国でも最先端の取り組みを行

うクラブの一つであるブリストル・シティFCのピーター・スミス氏をゲストに迎え、Jリーグ版SPL評価項目の初公開や今後の取り組みスケジュールの紹介、そして具体的なアクションにつなげるための意見交換などを実施した。



スポーツが成立する前提となる、自然環境の変化  
に対しての危機感について語る野々村芳和チェ  
アマン



「Progress over Perfection(完璧を求める  
よりも、みんなで一歩でも前へ)」と話すクレア氏



地域に根差すJクラブが果たし得る役割の大きさ  
について語る、日本財団の笹川順平理事長

### SPL概要

サッカークラブの気候アクションを数値化し、その進捗や目指すべき方向性を分かりやすく把握できる仕組み。各クラブから報告された気候変動対策にとって重要な12項目の取り組み状況について、独自の評価基準マトリクスを用いて定量的に効果分析が行われる。エネルギー、廃棄物、交通など、カテゴリテーマ別に加重を設

けて総合点を算出。SPLから上位20クラブのスコアとリーグテーブル(順位表)、活動内容が公表される。また、好事例の公表を通じ、Jクラブやスポーツ界の気候アクション推進を目指している。

### SPL評価項目

評価項目の詳細は、SPL専用ページに掲載 <https://www.jleague.jp/special/sustainability/planet/spl>



### SPL評価項目

2026特別シーズン(2026年1～6月)における各クラブの取り組みを評価対象とし、同11月に評価を基にしたランキングの公表を実施予定。

#### スケジュール

|                 |                                         |
|-----------------|-----------------------------------------|
| 2026年7～9月       | 各クラブの情報収集・分析期間                          |
| 2026年10月        | 各クラブの活動の評価(Sport Positive において評価・順位を確定) |
| 2026年11月(予定)    | ランキング公表                                 |
| 2026年7月～2027年6月 | 2026/27シーズンにおけるSPLの評価対象期間               |

### 2 アクセス・フォー・オール

Jリーグのサステナビリティにおける3つの活動領域のうち「インクルーシブな社会へ(PEOPLE)」を推進する取り組みの一環として、誰もが安心して快適にスタジアムで試合観戦ができる多様な機会と選択肢の提供に取り組んでいる。

この取り組みは、日本サッカー協会(JFA)が中心となりグラスルーツからエリートまで誰もがサッカーを「する」「見る」「関わる」ことにアクセスできる多様な「機会」と「選択肢」を持続的に確実に届けることを目的として、サッカー界全体で進めている「アクセス・フォー・オール」に通じる取り組みである。

その第一歩として、2025年6月の建築物のバリアフリー基準並びに「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」(国土交通省 2025年5月)の改正を受けて、2026年2月に「MUFGスタジアムにおける車椅子席リーグ統一運用ガイドライン(暫定版)」の試験運用開始を発表。昨年よりJリーグの主管試合において開始していたガイドラインの試験運用を、MUFGスタジアムで開催される各クラブの主管試合にも対象を広げた。



今後は、車椅子席利用に対する運用のブラッシュアップの他、さらに多様な方に向けた「アクセス・フォー・オール」の取り組みを広げていく見通し。

※掲載情報は2026年6月30日時点のものです

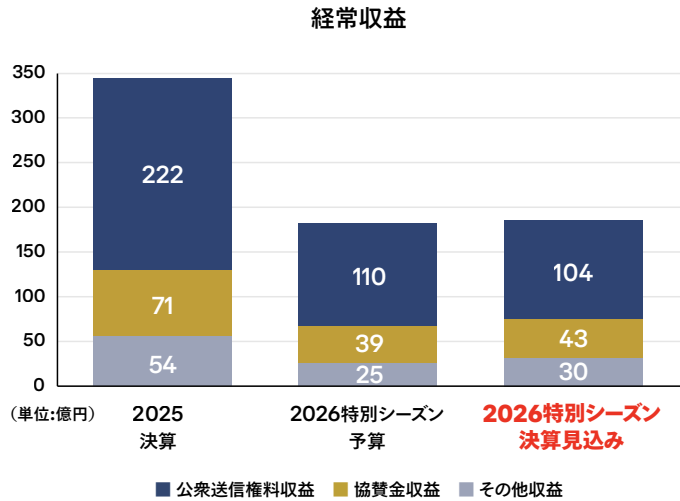


# Jリーグの財務報告

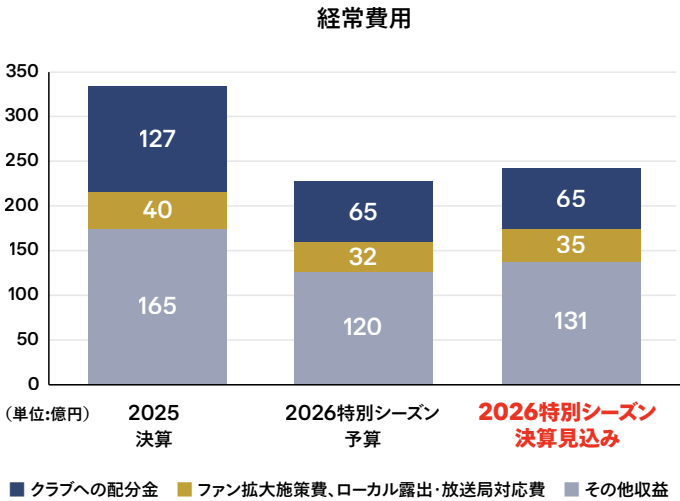
2026年特別シーズンの財務報告と2026/27収支予算

## 2026特別シーズンの財務報告

シーズン移行により6カ月決算となった2026 特別シーズンは、過去最多の総入場者数を更新した 2025 シーズンの盛り上がりを継続すべく、大規模な集客・露出施策の実施等を盛り込んだ積極的な成長投資に伴う▲43億円の経常増減を予算計上していた。



経常収益については協賛金収益の上振れ等により、予算よりも3億円増加となる見通しとなる一方で、ファン拡大施策等に追加投資を行った結果、経常費用は予算よりも14億円増加となり、経常増減は▲54億円となる見通し。



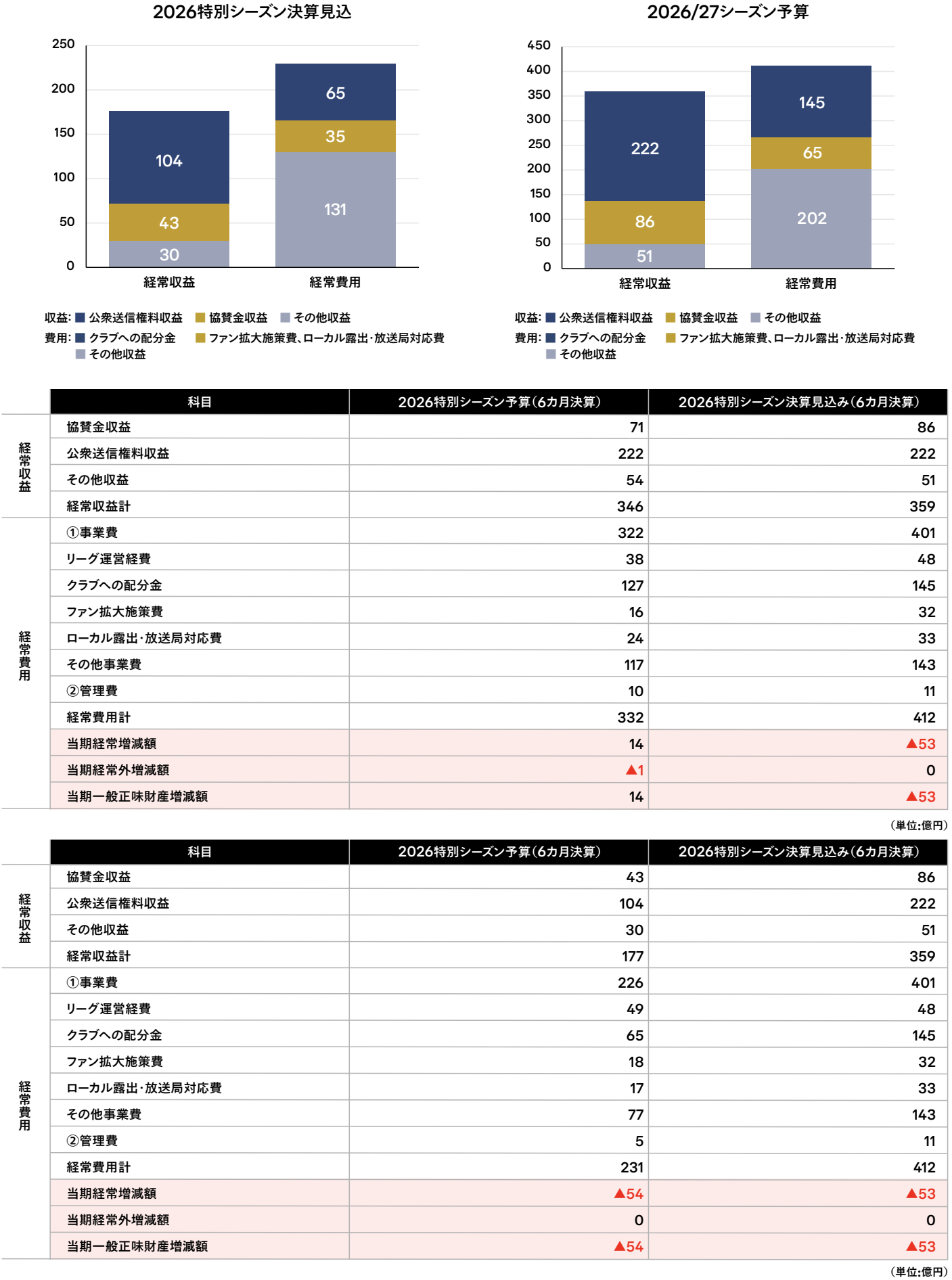
| 科目   |               | 2025決算(12カ月決算) | 2026特別シーズン予算(6カ月決算) | 2026特別シーズン決算見込み(6カ月決算) |
|------|---------------|----------------|---------------------|------------------------|
| 経常収益 | 協賛金収益         | 71             | 39                  | 43                     |
|      | 公衆送信権利収益      | 222            | 110                 | 104                    |
|      | その他収益         | 54             | 25                  | 30                     |
|      | 経常収益計         | 346            | 174                 | 117                    |
|      |               |                |                     |                        |
| 経常費用 | ①事業費          | 322            | 212                 | 226                    |
|      | リーグ運営経費       | 38             | 41                  | 49                     |
|      | クラブへの配分金      | 127            | 65                  | 65                     |
|      | ファン拡大施策費      | 16             | 13                  | 18                     |
|      | ローカル露出・放送局対応費 | 24             | 19                  | 17                     |
|      | その他事業費        | 117            | 73                  | 77                     |
|      | ②管理費          | 10             | 5                   | 5                      |
|      | 経常費用計         | 332            | 217                 | 231                    |
|      | 当期経常増減額       | 14             | ▲43                 | ▲54                    |
|      | 当期経常外増減額      | ▲1             | 0                   | 0                      |
|      | 当期一般正味財産増減額   | 14             | ▲43                 | ▲54                    |

(単位:億円)

## 2026/27シーズンの収支予算

シーズン移行を契機とした成長を加速するための戦略的投資を計画

- シーズン移行後初年度となる2026/27シーズンの経常収益は、過去最高となる359億円を予算化。
- 経常費用は412億円の予算となるが、クラブへの配分金予算の増額、新シーズンの開幕認知を高めることなど例年以上に集客・露出費用を予算計上している。
- 22027/28シーズン以降は、さらなる収益増加等により、財政状況は安定して推移する見通し。



※掲載情報は2026年6月30日時点のものです



# クラブライセンス判定と Jクラブの収支傾向

2026/27シーズンにおける  
クラブライセンス判定と、Jクラブの収支傾向

# クラブライセンス制度の目的と概要

クラブライセンス制度導入の目的は大きく分けて「サッカーの競技水準や施設の水準の持続的な向上」「クラブの経営安定化、財務能力・信頼性の向上」の2つ。

Jリーグのクラブライセンス制度では、J1・J2・J3リーグのいずれにも参加できる「J1クラブライセンス」、J2・J3リーグに参加できる「J2ク

ラブライセンス」、J3のみ参加できる「J3クラブライセンス」が用意されている。J1・J2・J3クラブであれば、いずれのクラブライセンスにも申請可能で、Jリーグ入会を目指すクラブは、J3クラブライセンスを申請することができる。

## 2026/27シーズンのクラブライセンス対象クラブ

| ライセンス | クラブ数 | 対象クラブ                                                                                                                                                             |
|-------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| J1    | 49   | 札幌・仙台・秋田・山形・いわき・鹿島・水戸・栃木SC・群馬・浦和・大宮・千葉・柏・FC東京・東京V・町田・川崎F・横浜FM・横浜FC・湘南・甲府・松本・新潟・富山・金沢・清水・磐田・藤枝・名古屋・岐阜・京都・G大阪・C大阪・神戸・岡山・広島・山口・讃岐・徳島・愛媛・今治・福岡・北九州・鳥栖・長崎・熊本・大分・鹿児島・琉球 |
| J2    | 9    | 八戸・福島・栃木C・相模原・長野・FC大阪・奈良・鳥取・宮崎                                                                                                                                    |
| J3    | 2    | 滋賀・高知                                                                                                                                                             |

※なお、2026/27シーズンは新たに入会するクラブがないため、JFLクラブは対象としていません

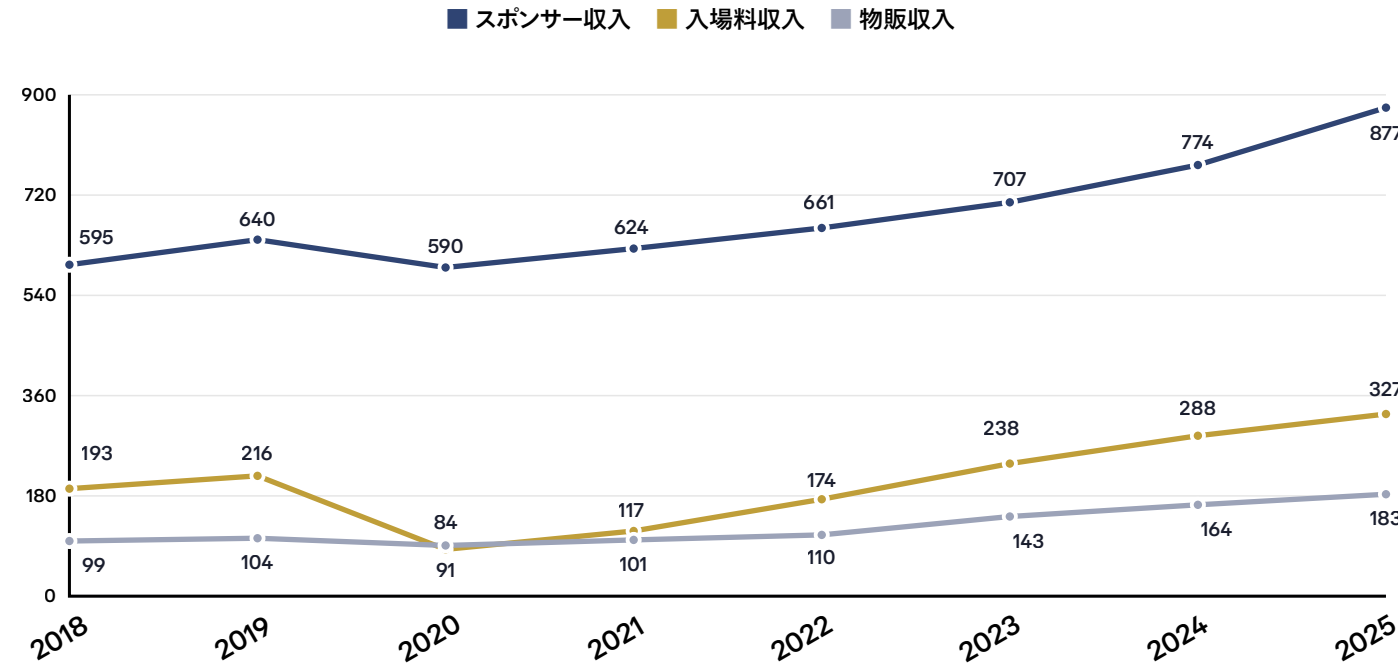
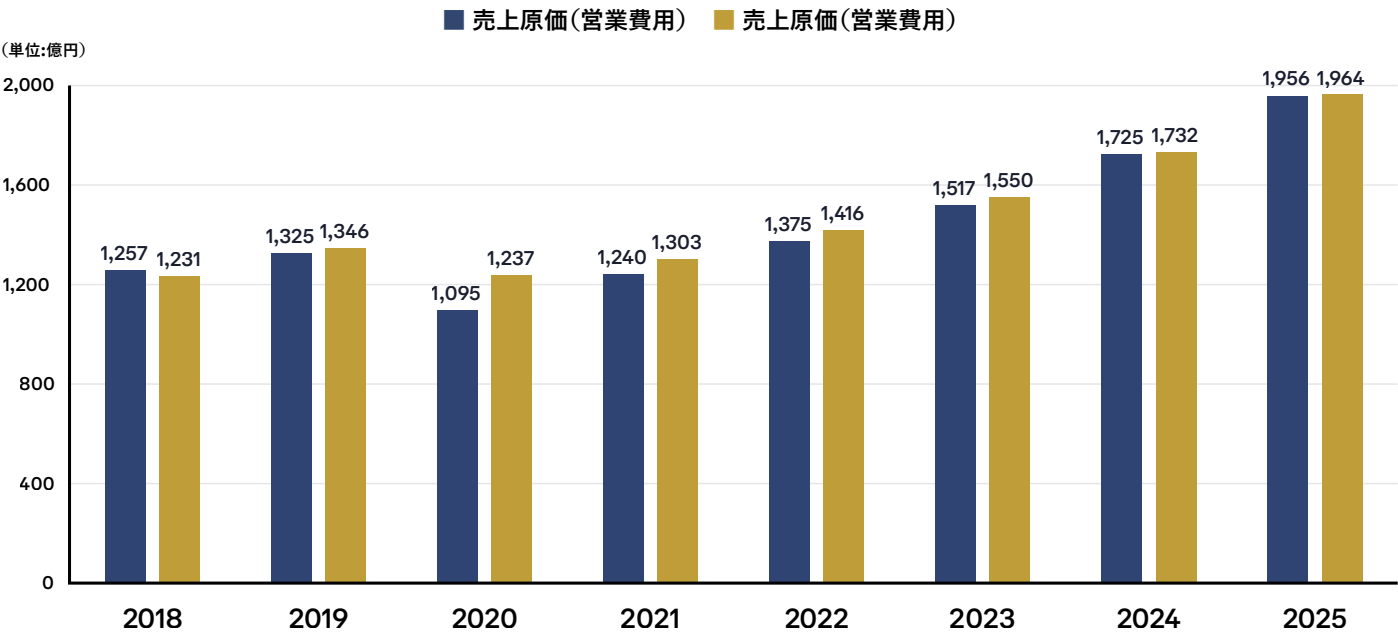


# クラブの収支傾向

2025年度は、60クラブの売上高合計が1,956億円となる見込みで、2024年度の1,725億円に対し113%の成長率となる見通しである。

※決算期を6月に変更した湘南ベルマーレ、北海道コンサドーレ札幌、ガイナレ鳥取、カマタマーレ讃岐、高知ユナイテッドSC、ギラヴァンツ北九州については、15カ月ないし17カ月の着地見込み  
売上高上位のクラブとして、浦和レッズは3年連続で100億円を超え(113億円)、川崎フロンターレも100億円を超えた(101億円)。

2025シーズンのJリーグJクラブ全体での売上高は2,100億円超となる見通しである。



※掲載情報は2026年6月30日時点のものです

J.LEAGUE TITLE PARTNER



J.LEAGUE OFFICIAL BROADCASTING PARTNER



J.LEAGUE TOP PARTNERS



J.LEAGUE SUPPORTING COMPANIES



J.LEAGUE CLIMATE ACTION PARTNER

NTTグループ 明治安田生命保険相互会社 丸紅新電力株式会社  
株式会社ユーラスエナジーホールディングス 日本自然エネルギー株式会社  
株式会社エスプールブルードットグリーン KPMGコンサルティング株式会社  
東急不動産株式会社(再生可能エネルギー事業「ReENE」) 三菱HCキャピタル株式会社

J.LEAGUE FAIR PLAY PARTNER

独立行政法人日本スポーツ振興センター 株式会社サンリオ

J.LEAGUE YOUTH DEVELOPMENT PARTNER

株式会社TENTIAL 加茂商事株式会社 ベースフード株式会社 東京海上日動火災保険株式会社  
株式会社IC 株式会社ミカサ

J.LEAGUE SEASON REVIEW 2026 SPECIAL

|         |                                                                                                                                 |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発行日     | 2026年8月                                                                                                                         |
| 発行人     | 野々村 芳和                                                                                                                          |
| 発行所     | 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）<br>〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-1-1明治安田生命ビル8F<br><a href="https://www.jleague.jp">https://www.jleague.jp</a>  |
| 写真      | Jリーグ                                                                                                                            |
| 制作・編集   | 公益社団法人 日本プロサッカーリーグ                                                                                                              |
| PDFデザイン | 深田 剛 〔合同会社マトイクリエイティブ〕                                                                                                           |
| Webデザイン | 永井 康太 〔合同会社マトイクリエイティブ〕<br><a href="https://aboutj.jleague.jp/seasonreview2026/">https://aboutj.jleague.jp/seasonreview2026/</a> |

